2020年度みみはらグループ 新入職員就職式・オリエンテーション

感染予防や医療安全学ぶ

4月1日から3日までの3日間、みみはらグループ新入職員オリエンテーションと就職式が開催されました。今年は新たに約80人の仲間がみみはらグループに加わりました。

田端理事長より新入職員代表に辞令授与

特殊な塗料を使っての感染対策の実習

全員マスクを着用し席の間隔をあけて研修

今年のオリエンテーションは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、感染のリスクを最小限に抑え、新たに医療職場で働き始める新入職員に、どうしても伝えておく必要のあることを研修するために、日程や内容を前日まで議論を重ねて実施しました。

日程が縮小される中でも、感染予防や医療安全は多くの時間を割いて学びました。感染対策の講義は、医療従事者として患者の安全を守るために感染予防に正しく取り組むことが重要であることが繰り返し強調されました。すべての患者のケアに際して普遍的に適用する標準予防策を学んだあと、実際に現場で使用する手袋やエプロンを身につけて研修をしました。現場で手袋を使用していても菌の感染を完全に防ぐには限界があること、手の消毒をすることの重要性を改めて学びました。

今年は感染拡大防止の観点から、座学・実習を2日と自宅での学習1日と規模を縮小しました。マスク着用・手指衛生・換気・清掃など感染予防を徹底し、会場を2カ所に分けて1会場の参加人数を少なくして実施しました。

また、みみはらグループの幹部職員を講師に、みみはらグループの理念や方針・歴史、医療人・社会人としての自覚・無料定額診療・友の会・医療安全などについての講義を受けました。

今、新入職員は各職場へ配属され、みみはらグループの職員として勤務しています。オリエンテーションで学んだことを活かし、医療人・社会人として、さらに大きく成長することを期待しています。

（新入職員オリエンテーション実施委員会事務局）

4月26日からアメリカ・ニューヨークで開催される「核兵器不拡散条約（NPT）再検討会議」にあわせて、〝原水爆禁止世界大会〟初めて国境を越え、マンハッタンを中心に国際的に取り組まれる予定でした。

また、ヒロシマ・ナガサキに原爆が投下されて75年目を迎え、核の危険と戦争の危険の高まりの中で開催されるこのニューヨーク世界大会は、「ヒバクシャの経験を国際的な注目の中心に据える最後にして最高の機会の一つになる！」とのことで大きな注目が寄せられていました。

みみはらグループもこれに呼応して医師、看護師をはじめ、12人の代表団を派遣することを決め、代表団で実行委員会を結成し、署名や募金など、参加者一人ひとりがこのニューヨーク大会に参加する熱い決意の下、運動を続けてきました。

しかしながら、世界的な規模で広まった「新型コロナウイルス」の感染拡大の影響により中止せざるをえなくなり、みみはらグループも代表派遣を断念致しました。

新型コロナウイルスの猛威は、世界が協力して克服すべき大きな問題であると同時に、核兵器の廃絶は現在も変わることのない重要・緊急の課題でもあります。

私たちは、「ニューヨーク世界大会」成功のために寄せられた、多くの友の会会員、職員、地域の諸団体からの支持や行動を力に、「核戦争を阻止し、核兵器の全面禁止・廃絶を達成して世界のヒバクシャの援護と連帯のための行動」を今後も創意的なとりくみで持続し、さらに大きく発展させていきます。

皆さんから大きなご好意でいただきました募金につきましては、NPT（核不拡散条約）や原水爆禁止世界大会など、核兵器廃絶、平和のとりくみなど、今後の運動に活用させていただきます。

被爆75年、今年8月の原水禁世界大会に向けての取り組みに切り替え、5月から東京・夢の島から始まる国民平和大行進、秋の国連総会をゴールとする「ヒバクシャ国際署名」、そして各地域、職場での平和の共同のとりくみの成功のためにがんばります。

超高齢化がすすむヒバクシャ、そして二度と同じ過ちをさせないためにも、特に若い世代の職員を中心に、これらのとりくみを引き継いでいきたいと思います。

（2020年原水爆禁止世界大会ニューヨーク大会実行委員会事務局）

2020年原水爆禁止世界大会NY大会が中止

募金は平和のための運動に活用します

原水禁世界大会についての学習会

（1面からのつづき）

社会のあり方を変える運動の先頭に

社会的に弱い立場の人たちの人権が、どんどん脅かされています。循環器内科医であった頃の「気になる患者訪問」と救急医時代の「貧困と救急医療に関する研究」は、私の力の源です。

「お金がなく、自家用車を売って心臓カテーテル治療費をねん出した中年男性」「バス代が払えず、耳原総合病院から深井の団地まで歩いて帰った高齢心不全女性」「手術が必要な骨折なのに、鎮痛剤だけで救急外来を後にした非正規労働者」。数えきれないほどの苦しみを、私はこれまで目の当たりにしてきました。人の命と健康を守ることを目的とした職業についている人間として、こういう状況を許しておけません。声を上げ、動かなければ社会保障の前進はありません。各種署名用紙の後ろに存在する「虐げられた多数の人々」の姿に思いを馳せ、理事長として各種団体と協力しながら社会のあり方を変えてゆく運動の先頭に立つ所存です。また職員一人一人が、日々の医療・介護活動の中で患者さんや利用者さんが抱える複雑な社会的問題の解決に関わり、集団として人権意識が醸成されてゆくような実践をたくさん作り出してゆきたいと思います。

いろいろなアイデアやご意見をぜひ私に

同仁会には大きな強みがあります。同仁会も構成員の一つである「みみはらグループ」は、医療・介護・福祉・地域活動を幅広く提供しています。これらの団体、事業所の活動をさらに有機的に連携させれば、もっと大きな力が発揮できます。理事長に求められる役割として積極的に取り組みます。

最後に、私は自分でも「真面目で誠実」だと思っています。

皆さん、いろいろなアイデアやご意見をぜひ私にお寄せください。ご批判も含めて真摯に受け止め、改善に生かしてゆきます。私は「職員のために最も苦労する存在」が理事長だと考えています。これから皆さんを支えるリーダーとして精一杯努力してまいります。

理事長　田端　志郎